

## イネ科の新帰化植物、ホガクレシバ（新称）（木場英久、田中徳久）

Hidehisa KOBA and Norihisa TANAKA: *Crypsis schoenoides* (L.) Lam., Newly Naturalized in Japan

神奈川県植物誌調査会の松本雅人氏が、相模原市でスズメノテッポウを太くしたような花序を出した見慣れぬ小型のイネ科植物を採集して来られた。中国やヨーロッパなどの植物誌にあたったところ、地中海から中国にかけて分布し、北米に帰化している *Crypsis schoenoides* (L.) Lam. と判明した。

松本氏によると、牛糞の堆肥を撒かれた畑で生育していたとのことで、牛の飼料に混入して帰化したものと思われる。その後、神奈川県央部の数カ所からも採集されている。これらのことから、帰化植物として定着する可能性が高いと考えられる。

属名の *Crypsis* は花序の一部が葉鞘に隠れることを意味するので、和名をホガクレシバと新称し、日本新産の帰化植物として報告する。

*Crypsis schoenoides* (L.) Lam., Tabl. Encycl. 1: 666, t. 42 (1791). Bor, Grass. Burma, Ceylon, India & Pakistan 622 (1960); Hammel & Reeder in Syst. Bot. 4: 276 (1979); Tutin in Tutin et al., Fl. Europa. 5: 258 (1980); Cope in Nasir & Ali, Fl. Pakistan 143: 132 (1982); S. G. Lu in S. L. Cheng, Fl. Reip. Popul. Sin. 10(1): 101, t. 32 (1990).

*Phleum schoenoides* L., Sp. Pl. 60 (1753).

*Heleocholoa schoenoides* (L.) Host, Icon. Descr. Gram. Austriac. 1: 23, t. 30 (1801); Hitchc., Manual Grass. ed. 2. 433 (1951).

一年草。叢生し、高さ10–30 cm。上部の節で分枝することがある。節は無毛で、しばしば紫色を帯びる。葉身は狭披針形で、長さ5–8 cm、幅3–5 mm。基部近くの葉鞘の縁や葉身には疎らに長毛が生えることがある。葉鞘は節間より短い。葉舌は膜状で背軸面に毛が生え、高さ約0.5 mm。円錐花序は密な円柱形で、長さ1–4 cm、太さ6–8 mm、花序の下部は1–2枚の葉鞘に包まれる。小穂は1小花からなり、長さ2.5–3 mm。第一苞穎は第二苞穎より短い。外穎は、苞穎より長く、明瞭な竜骨がある。苞穎と外穎には竜骨と先

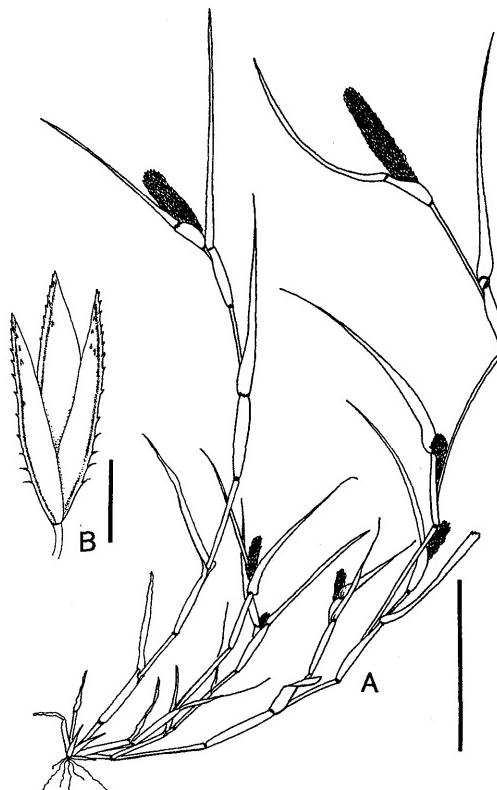


Fig. 1. *Crypsis schoenoides*. A: Whole plant; B: Spikelet. Scales: A 5 cm; B 1 mm.

端付近に刺状突起がある。内穎には平滑な2竜骨がある。雄蕊は3個。薬は黄色で、長さ約1 mm。果実は楕円形で、長さ約1 mm。標本：神奈川県愛川町原箕輪（松本雅人 s.n., Jul. 3, 1999, KPM-NA116551），中津大塚（松本雅人 s.n., Oct. 26, 1998, ACM-25694）。厚木市下川入（松本雅人 s.n., Oct. 26, 1998, ACM-25716）。綾瀬市早川嫁ヶ久保（松本雅人 s.n., Oct. 30, 1998, ACM-25682, Jul. 2, 1999, KPM-NA116552, 116553）。相模原市磯部峰山（松本雅人 s.n., Aug. 7, 1998, KPM-NA117138, 松本雅人・岩瀬理恵 s.n., Aug. 14, 1998,

SCM-11211), 田名塩田 (松本雅人 s.n., Aug. 16, 1998, SCM-10883). 座間市小池東原 (松本雅人 s.n., Oct. 5, 1998, KPM-NA117139). (ACM: 厚木市郷土資料館, KPM: 神奈川県立生命の星・地球博物館, SCM: 相模原市立博物館).

## 新刊

□Saunders R. M.: *Monograph of Schisandra (Schisandraceae)* 146 pp. 2000. The American Society of Plant Taxonomists. \$ 21.00.

これはアメリカ植物分類学会が刊行している *Systematic Botany Monographs* の 58 卷として出版された、文字通りマツブサ属の分類誌である。著者 Saunders はすでに同じシリーズの 54 卷 (1998) でサネカズラ属を纏めている。著者によればマツブサ属は 23 種に分類され、1 種 (*S. glabra*) が北アメリカに産する他はすべてアジア産で、多様性の中心は中国南東部から中南部にある。本書は、この属についての研究史、形態学、生化学、胚発生、生物地理などからの分析、形態形質にもとづく系統解析とそれに基礎をおく分類体系、各種についての詳細な記載と標本などからなる。いずれの分析も詳細でかつ適切な評価が与えられている。日本に産するマツブサとチョウセンゴミシの扱いには従来と変わりはない。本書は多数の標本を引用しているが、日本の標本館の標本は数点を除き引用されていない。このような総括的研究にどの研究機関も貸出しななどの協力ができなかったのは、事情があるとはいえ悔やまれる。

(大場秀章)

□李 永魯: *韓国植物研究院報 第一号*.

李 永魯氏が主催する韓国植物研究院から研究報告が出版された。韓国植物研究院報第一号 (*Bull. of Korea Plant Research* No. 1, May 10, 2000) である。B5 判、50 頁からなり、多くの美しいカラー写真や図を入れて、韓国に産する *Pulsatilla*, *Asarum*, *Orostachys*, *Elsholtzia*, *Nuphar*, *Allium scorodoprasum* L. の解説や、韓国新産の植物などが報告されている。論文は主に韓国語であるが、必要なところは英語で書かれている。幾つかの新種や新変種が見られる。韓国の植物は日本に深い

本稿をまとめるにあたり、御助言をいただいた門田裕一博士と、生育地の情報を寄せてくださった松本雅人氏に謝意を表する。

(神奈川県立生命の星・地球博物館  
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History,  
Odawara, Kanagawa, 250-0031 JAPAN)

関係を持つので、この報告書は日本の植物研究にも見逃せないものである。定価が書かれていないので、非売品だと思う。出版は次の所である。韓国植物研究院、ソウル特別市鐘路区東崇洞1-88。  
(山崎 敬)

□土門尚三: *山形県 北庄内の植物誌* 190 pp. 1999. 北庄内の植物誌刊行会. ¥3,500 (税別).

力作である。本書でいう北庄内とは、山形県日本海側の庄内地方のうちの最上川以北を指し、鳥海山と飛島を含んでいる。全体の構成は、I. 山形県北庄内の代表的な植物の図譜、II. 山形県北庄内の植物相 (フロラ) について、III. 山形県北庄内の植物目録、IV. 分布・分類学上特記すべき植物、の 4 つとなっている。パート I にはチョウカイフスマ、チョウカイアザミなど力強い 41 葉の線画が収録されている。著者から原画を見せていただいたときから本書の刊行を楽しみにしていたものである。パート II には植物相の特徴と植生が概観されている。本書は、「山形県の 8 % を占めているこの北庄内に、151 科 1,747 種もの高等植物が自生していることが明らかになった。じつに山形県全体からすれば約 75 % もの植物が存在することになる。山形県においてこれだけの面積にこれだけのフロラは他にないと言ってよかろう」という。パート III がそのリストであるが、もとになる標本の所在を明記して欲しいところである。本地域に含まれる飛島はトビシマカンゾウ、ヒロハキクザキイチゲなど固有の分類群が分布するほか、山形県に 62 種が知られている日本海要素がたった 3 種だけ (オオイタドリ、ハイイヌツゲ、ミチノクホンモンジスゲ) しかないというのは驚きである。パート IV には特記すべき植物の、北庄内及び山形県での形